平成30年度 授業シラバスの詳細内容

되므션(#\				133 Alle 1 *	1000054
科目名(英)	コミュニケーション演習 (Communication Seminar)		授業コード	A029051	
担当教員名	山本 義史、安田 幸夫、清水 孝子	-、杉浦 嘉雄		科目ナンバリン グコード	A10304
配当学年	1	開講期	後期		
必修•選択区分	選択	単位数	2		
履修上の注意また は履修条件	受講心得に準じます。				
受講心得	①第1回に重要なオリエンテーションがす。また、第15回は、最終論文を授業は ②演習のため、授業は講義形式よりもケーションの基礎として、知らない人とします)、他者の話がしっかり聴けること、他者と協力して作業ができること、るることを最重要視します。したがって、る③ときどき、ホームワーク(宿題)を提出上)、ホームワークの提出、コミュニケー最終論文を中心に採点を行います。毎上400字を採点基準とします。	Pに書いてもらいます話し合いやグループでも話すように努力で、大人数の前でも野さらにそれらが円滑したれらが守られないとさせることがありまでもサンへの参加態度	トから、必式による。 かっちょう かっこう できる かいこう しき しんしん しんしん しん	ず出席してくだって進めていきまとんど毎回グらすに自己表に授業者の指にはなることは、出席(全15匹回が、	さい。 ます。コミュニ ループ替え 現できるこ 示に応じられ があり回よ 到中11 論文 があり回 があり回 があり回 がありび
教科書	なし。				
参考文献及び指定 図書	なし。				
関連科目	心理学、人間力概論、文章表現基礎講	座			

授業の目的	本講義を通して、「こころの力」「社会人基礎力」「職業能力」「専門能力」の4つの力が結集した「人間力」を育成をベースに、社会貢献や地域の活性化・福祉に必要な実践的な知識・技術を習得します。特に、コミュニケーション能力の育成と人間を見るための視点の修得を目標とします。具体的には、コミュニケーション・スキル、協働、思いやり、自己探求、自己表現、問題解決などをグループでの話し合いや協同学習をとおして考え、身につけます。具体的には、知らない人とでも話せるようになること、他者の話を傾聴できること、自己表現できること、他者とも協働しながら問題解決できるようになることを主としてめざします。また、こうした基礎的な力をもとに生きるための力を考えていきます。
授業の概要	実習や協同学習を中心として、授業中積極的に参加することによってコミュニケーション・スキル を高めていきます。

〇授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週:オリエンテーション	
第2週:グループでの話し合い	

夏休みの思い出、春休みに挑戦したいことについて・分かち合い、小論文、ホームワー│予習「自分の家庭・家族、 ク(自分の家庭・家族、出身地の観光地・名物、得意な技術・スキル、遊び・趣味など自 出身地の観光地・名物、得 慢できるものについて情報を集めます) 意な技術・スキル、遊び・趣 味など自慢できるものにつ いて」考えてくる(2h)、授業 後に小論文によるふり返り 「本日のコミュニケーション で気づいたこと」(0.5h) 第3週:グループでの話し合い 自分の家庭・家族、出身地の観光地・名物、得意な技術・スキル、遊び・趣味など自慢 予習「秋らしいものについ できるものについて、分かち合い、小論文、ホームワーク(秋らしいものについて情報を て」考えてくる(2h)、授業 集めます) 後に小論文によるふり返り 「本日のコミュニケーション で気づいたこと」(0.5h)

単 4 1周・クルーフ 7%(1) 計し会し	
第4週:グループでの話し合い 秋探し・裏山小散策、分かち合い、小論文、ホームワーク(正月の過ごし方について情報を集めます)	予習「正月の過ごし方について」考えてくる(2h)、授業後に小論文によるふり返り「本日のコミュニケーションで気づいたこと」(0.5h)
第 5 週 : グループでの話し合い	
表情・ノンバーバルコミュニケーション、分かち合い、小論文	授業後に小論文によるふり返り「本日のコミュニケーションで気づいたこと」「本日のコミュニケーションで気づいたこと」(0.5h)
第 6 週 : グループでの話し合い	
音楽によるコミュニケーション、分かち合い、小論文	授業後に小論文によるふり返り「本日のコミュニケーションで気づいたこと」「本日のコミュニケーションで気づいたこと」(0.5h)
第 7 週:グループでの話し合い	
み・返:フル・フ くの品じらい 映画を使ったコミュニケーション・エクササイズ1(グループ作り、共通点の話し合い)、分 かち合い、小論文、アンケート	授業後に小論文によるふり 返り「本日のコミュニケー ションで気づいたこと」(0.5 h)
第 8 週 : グループでの話し合い	
映画を使ったコミュニケーション・エクササイズ2、分かち合い、小論文	予習「授業中に示した映画に関わる事項について調べてくる」(2h)、授業後に小論文によるふり返り「本日のコミュニケーションで気づいたこと」(0.5h)
第 9 週 : グループ学習	
映画を使ったコミュニケーション・エクササイズ3、分かち合い、小論文	予習「授業中に示した映画に関わる事項について調べてくる」(2h)、授業後に小論文によるふり返り「本日のコミュニケーションで気づいたこと」(0.5h)
第10週 : グループ学習	
	予習「授業中に示した映画
映画を使ったコミュニケーション・エクササイズ4、分かち合い、小論文	に関わる事項について調べてくる」(2h)、授業後に小論文によるふり返り「本日のコミュニケーションで気づいたこと」(0.5h)
	に関わる事項について調べてくる」(2h)、授業後に 小論文によるふり返り「本 日のコミュニケーションで気
映画を使ったコミュニケーション・エクササイス4、分かち合い、小論文 第11週:グループ学習 映画を使ったコミュニケーション・エクササイズ5、分かち合い、小論文	に関わる事項について調べてくる」(2h)、授業後に 小論文によるふり返り「本 日のコミュニケーションで気

映画を使ったコミ <u>=</u> 	:コミュニケーション・エクササイズ6、分かち合い、小論文		予習「生きていくのに必要なものについて考えてくる」(2h)、授業後に小論文によるふり返り「本日のコミュニケーションで気づいたこと」(0.5h)	
第13週:グループ	学習			
テーマを設定した			予習「なぜコミュニケーションが必要なのかについて考えてくる」(2h)、授業後に小論文によるふり返り「マインドマップやKJ法で、またコミュニケーションで難しかったこと、逆によかったこと」(0.5h)	
第14週:グループ	学習			
前回作品鑑賞・検討、テーマを設定した話し合い1「なぜコミュニケーションが必要なのか」、発表、小論文		予習「うまくコミュニケーショションをするにはどうしたよいかについて考えてくる」(2h)、授業後に小論文によるふり返り「今日のコミュニケーションでうまくいったこと、逆に難しかったこと」(0.5h)		
	学習 討、テーマを設定した話し合い3「うまく: 各グループでマニュアル作り」、発表、/		予習「授業中に示した映画に関わる事項について調べてくる」(2h)、授業後に小論文によるふり返り「コミュニケーションにおいてうまく実行できたこと」(0.5h)	
│ 第16週:期末試験				
	討、ワークシートによる全15回の分ふり	返り、自己評価、最終論文、	最終論文のためにワーク シートをもってきます。	
	(1)授業の形式	「演習等形式」		
授業の運営方法	(2)複数担当の場合の方式 「共同担当方式」			
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」		
地域志向科目	該当しない	·		
備考				

〇単位を修得するために達成すべき到達目標		
【関心·意欲·態 度】	幅広く人間関係やコミュニケーションに監視をもって、積極的行動をします。	
【知識・理解】	コミュニケーションや人間関係の在り方を演習を通して修得します。	
【技能・表現・コミュニ ケーション】	演習を通してコミュニケーション・スキルや表現力を高めます。	
【思考·判断·創 造】	どういう状況で、どのようなコミュニケーションが適切か思考・判断し、創造的に行動します。	

〇成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評 価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他(無形成果)	
【 関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」 を含む。		60点		
【知識・理解】 ※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。				
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		30点		
【 思考・判断・創造】 ※「考え抜くカ」を含む。		10点		

(「人間力」について)

※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。

〇配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安		
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安	
レポート・作品等 (提出物)	毎回の小論文は、意味のある文章であって、かつ350字以上400字を採点基準とします。最高点4点×15回=60点。フィードバックについては、必要に応じて授業中に全体的に行います。最終論文(第15回)400字以上800字以内、意味のある文章であり、かつ題意に沿った記述であれば、30点。発想やアイディアがユニークであったり、思慮深く優れていたりすれば10点加点の合計40点。	
発表・その他 (無形成果)		